

長崎・【西海市】檜浦郷訪問記

**A travel sketch on Kashinourago, 【Saikai city】 in Nagasaki Prefecture.**

関根 幹夫

Mikio SEKINE

On a drizzly Father's Day, Kasinourago, a small town on the sea, shows us gorgeous harmony with the blue sea and green forests. It will be most beautiful at sunset. Why did I visit this town? Needless to say, spider fighting is held at Kashinourago. The 28th spider fighting competition at Kashinourago was scheduled on June 20, 2010, but the games were called off on account of shortage of *Kogane*-spiders, or *Argiope amoena*. It was really regrettable. I managed to find a person who is well known in the spider-fighting community.

“We have been having unseasonable weather for the past few months”, said Mr. Miyamori, the treasurer of the Kashinourago Spider-Fighting Club. He said that spiders are too small to fight this year. I visited Mr. Miyamori, and he kindly told me a helpful story. There is a strong resemblance between the spider fighting of Kashinourago and the spider fighting of Kajiki, Kagoshima Prefecture, which is the most famous spider fighting in Japan. But there is a slight difference between the Kajiki's style of spider fighting and the Kasinourago's style of spider fighting.

At Kajiki: a slender stick on which spiders are put is fixed on the vertical post, in a horizontal position. On the other hand, at Kashinourago: a slender stick is held by the referee's hand on a nearly horizontal plane.

Perhaps, the Kashinourago's style of spider fighting is the earlier type, in other words, it is still in its embryonic stage.

Next year, let's hope the weather gets back to seasonal averages.

小雨けむる海辺の鄙は、緑の森が青い海との見事なハーモニーを奏でていた。西の海に夕陽がとけ込めばそれはきっと素晴らしい景色だろうと、僕は想像をたくましくした。2010年6月20日、「第28回檜浦山こぶ選手権大会」が開催されると聞いて、西海市役所のすぐ傍らの檜浦公民館を訪れた。山こぶは、コガネグ

モの方言。二匹のコガネグモを横棒の土俵上で闘わせる「クモ相撲」が行われるのである。

ところが今年にはクモが小さく数も少ないことから、中止になったとのこと。檜浦公民館は鍵がかかり、誰もいない。♪は一るばる来たぜ長崎…、ここで諦めてしまうのはあまりに残念。日曜日なのに開いていた（よかった！）西海市役所の職員の方に伺い、「檜浦郷山こぶ愛好会」にコンタクトをとった。突然の訪問にも関わらず、1983年の第2回大会以来会計役を務めておられる宮守公治氏からの快諾を得て、厚かましくも宮守氏のお宅にお邪魔をした。宮守氏に拠れば、この地の「クモ相撲」は、子どもの頃に遊んだクモの闘いを6月の父の日の親睦行事にしようと企画したのが始まりとの事。



図1 トーナメント対戦表を広げる宮守公治氏

熱心な人は、2週間程前からクモを採集してきて育てる。家の中で育てる人もいれば、庭に放しておく人もいる。しかし、餌がないとクモは糸を出してそれを伝い、どこかに行ってしまうという。なお、クモを持ってこない手ぶらの大会参加者もいるが、このような人にはクモを渡す。その日にならないと参加人数が判らないので、予め参加人数の変動に対応できるトーナメント表を作っておく（図1）。対戦相手はくじ引きで決める。トーナメント戦である。運営の実務を細やかに進めておられる宮守氏のお人柄が覗えた。勝負は、棒から落ちたら負け、牽引糸を切られたら負け、噛みつかれたら負けである。殺すところまではやらない。大会が済んだら山へ持って行きクモを放す。「山こぶ選手権大会」は、公民館の屋内で行う。クモが落ちてもクモが怪我をしないように畳に座布団を置く。この上

方で行司が手にして持つ横棒上でクモを闘わせる(図2)。この様を、車座になって皆は観戦する。鹿児島・加治木のように、横棒を縦棒の支柱に取り付けることはない。おそらく、手で持った横棒上でクモを闘わせる檜浦郷の方法は、横棒を

縦棒支柱に取り付けてクモを闘わせる加治木などに見られる方法よりも古いやり方と考えられるだろう。2002年の加治木の「くも合戦全国大会」に出場した時は、「山こぶ選手権大会」の日程を変更した。この時、合併して西海市となる前の大瀬戸町から全国大会出場の補助金が出た。また、加治木の「くも合戦全国大会」に前後して、加治木のくも合戦保存会が檜浦郷を訪問した事もあったが、これを除いては、鹿児島・加治木との交流はなかったとの事である。檜浦郷では加治木との交流がなかったことから、手で

持った横棒上でクモを闘わせるというやり方が檜浦郷に残っていると考えるのが妥当なように思われる。

宮守氏は、島原の出身だが、子どもの頃同じようなやり方で遊んだという。おとなは行わず、子どもたちの遊びであった。賭けて行うことはなかったとの事。「山こぶ選手権大会」は、予めクモを採集し育てている熱心な人がたいてい好成績をあげる。僕の繰り出す質問に宮守氏は丁寧に答えてくださり、奥様は、第2回大会の礼状葉書・大会の様子を記録した写真やトーナメント表・新聞に載った



図3 木の枝にたからせて運び込まれた山こぶ（コガネグモ）と、  
檜浦公民館の屋内で行司を囲み山こぶの闘いに興じる人々。

2002年の写真。宮守氏提供。

記事の切り抜きなどを探してくださった（図1～3）。感激である。クモと遊ぶ心を持った人は、優しい人たちばかりだ！来年の良い天候と、「山こぶ選手権大会」が末永く継承されることを祈りながら、嬉しい気持ち一杯で檜浦郷を後に、レンタカーのハンドルを握った僕だった。

### クモの名前クイズのヒント

- |          |          |
|----------|----------|
| ①ハエトリグモ科 | ⑦コガネグモ科  |
| ②コマチグモ科  | ⑧トタテグモ科  |
| ③ヒメグモ科   | ⑨カニグモ科   |
| ④コガネグモ科  | ⑩コガネグモ科  |
| ⑤サラグモ科   | ⑪カラカラグモ科 |
| ⑥ヒメグモ科   | ⑫アシナガグモ科 |